

令和7年度 佐賀県 英語教育改善プラン

言語活動を通して、積極的に自分の考えや気持ちを伝え合い、コミュニケーションの楽しさや喜びを実感する児童の育成

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む)
 (専科教員含む)
 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①各研修会のアンケートから、言語活動を中心とした授業づくりへの理解が進んでいる。
 (R6小学校・中学校英語指導力等向上研修の講演が参考になった100%)
 (R6小学校専科教員を対象にした研修が参考になった 90%)
- ②小中連携の視点をもった授業づくりへの理解が進んでいる。
 (R6小学校・中学校英語指導力等向上研修が小中連携に役にたった99%)
- ③R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「英語の勉強は好きですか」に肯定的な回答が増加が見られる。
 (R5:71.8%⇒R6:72.0%)
- ①言語活動を中心とした授業改善の意識が高まりが見られるが、研修会のアンケート等から、指導の実際や具体例が現場から求められている。
- ②ALTの参画の数値がR5年度増加したが、言語活動の充実を図るためにさらなる改善を図る必要がある。
 (児童のやり取りの相手にALTが参画した学校 R4:87.5%⇒R5:90.0%)

2. 要因分析

- ①佐賀県英語学力向上対策検討委員会での意見を参考に、「言語活動の充実を図る3つのポイント」を作成し、各研修会で言語活動について周知したことで改善したと考えられる。
- ②小中連携の視点をもった授業づくりの演習を行う研修会を行っており、小中連携を行う学校が増えていると考えられる。
- ③英語専科教員の教員配置校の割合は約71%で、専門性を生かした指導を行うことで、児童が英語を使いながら学習を楽しむ環境づくりができてきている。
- ①英語専科教員及び英語担当教員が、学習指導要領の理解を深めたり、情報交換をしたりする機会が少ないことが要因と考えられる。
- ②ALTがどのように授業に参画することができるのかの具体を示すことやALTとの打合せの時間がとることなどが、十分ではないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 市町教育委員会、英語担当教員の共通理解の推進
- 外部有識者を含む英語学力向上対策検討委員会における意見の周知
 - 「言語活動の充実を図るための3つのポイント」
 - 佐賀県版「CAN-DOリスト」及び「パフォーマンステスト事例集」
 - SAGA eスタディ（英語デジタル教材）
- ② ①小中連携の視点をもった授業づくりの推進
- 小学校・中学校英語指導力等向上研修（三神地区）
英語担当教員が小中連携を意識した単元づくりや言語活動について理解を深められるようにする。
- ③ ①②言語活動の充実を図るための研修の推進
- 小学校英語担当教師研修
R7年度より英語担当教員も任意で参加可とする。
講師による講義や協議を通して、参加者が言語活動を通じた指導やALTとの効果的なTTなどについて理解を深められるようにする。また、ALTとの打合せ時間の確保や効果的な参画の在り方等について、情報交換を行い、指導の改善に生かす。英語専科教員の実践を英語担当教員と共有することで、有効な実践を波及する。
 - 指導主事による学校訪問（教育事務所・支所の学校訪問随時、専科教員訪問）
 - 小学校スーパーティーチャアの授業動画を作成し、SAGA Eコネクに掲載し、研修に役立てられるようにする。
- ③ 英語担当教員の専門性を高める手立て
- 外部検定試験 TOEIC IP オンライン実施（R6参集）
1時間で受験可、期間内いつでも受験可、問題集の配付有
 - 一定の英語力を有する小学校教員の新規採用の推進
採用率は、R4年度13%、R5年度5.2%、R6年度14.5%だった。今後も、採用時に特別選考の枠を設けて、英語力がある教員の採用を推進していく。



第1回英語学力向上対策検討委員会



SAGA eスタディ

令和7年度 佐賀県 英語教育改善プラン

言語活動を通して、コミュニケーションの楽しさや喜びを実感し、積極的に自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成

目標

- 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている教師の割合 (R6 : 76.2% ⇒ R7 : 85.0%)
- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 41.1% ⇒ R7 : 55.0%)

- 言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①「授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている」と答えた教師の割合について、改善が見られる。
(R5:59.5%⇒*R6:76.2%)
- ②「発話の50%以上の時間を英語で行っている」と答えた教師の割合について、改善が見られる。
(R5:47.3%⇒*R6:67.8%)
*R6は県独自調査
- ③R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動への肯定的な回答に改善が見られる。
(R5:78.8%⇒R6:80.0%)
- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力がある中学3年生の割合は11.0ポイント増加したが、R9年度の目標値60%を下回っている。
(R5:30.1%⇒R6:41.1%)
- ②言語活動を中心とした授業改善の意識が高まりが見られるが、研修会のアンケート等から、指導の実際や具体例が現場から求められている。
- ③CEFR B2相当の資格を取得している中学校英語教員の割合は増加傾向にあるが、目標値には達していない。
(R5:40.7%⇒R6:44.4%)

2. 要因分析

- ①②佐賀県英語学力向上対策検討委員会での意見を参考に、「言語活動の充実を図る3つのポイント」を作成し、言語活動について周知したことで改善したと考えられる。また、言語活動を中心とした授業改善が進んだことで、教師の説明が減り、英語による導入や指示などを含む教師の英語による発話が増加したと考えられる。
- ③各種研修会において、単元づくりの研修を実施したことで、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が増加したと考えられる。
- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を目指す土壌づくりやCEFR A1レベル相当以上を客観的に判断することをさらに充実させていく必要があると考えられる。
- ②教員がモデルとなる授業を見に行ったり、具体例を共有したりする機会が少ないことが要因と考えられる。
- ③県で実施している外部検定試験の受験者が限定的で、教員が自身の英語力を伸ばすための機会が十分でないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 生徒の英語力向上に係る事業の推進
 - ア 外部有識者を含む英語学力向上対策検討委員会
 - ・第3回（7月）R6年度英語教育実施状況調査について 英語教育改善プランの目標を達成するための取組について
 - ・第4回（12月）R7年度の取組と成果及び課題 「中学生の英語力向上事業」における効果検証など
 - イ 「中学生の英語力向上事業」
 - ・3市町（唐津市、嬉野市、基山町）
 - ・中学校3年生（対象1,340人）に英検受験の全額補助
 - ・結果分析、意識調査等による効果測定
 - ウ 市町教育委員会、英語担当教員の共通理解
 - ・「言語活動の充実を図るための3つのポイント」
 - ・佐賀県版「CAN-DOリスト」及び「パフォーマンステスト事例集」
 - ・「言語活動の例」及び「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の判断について」発出
 - ・英語担当教師アンケート（6月、10月）
 - ・SAGA eスタディ（英語デジタル教材）及びMEXCBTの活用
- ② 言語活動の充実を図るための研修の推進
 - ・小学校・中学校英語指導力等向上研修（三神地区）
 - ・中学校英語担当教師研修
 - ・中学校英語授業力向上研修（R6～中英研共催）
 - ・「複数単元を通じた指導と評価の計画例」作成（R6～中英研共催）
 - ・指導主事による学校訪問（教育事務所・支所の学校訪問随行、専科教員訪問）
- ③ 外部検定試験の受験者を増加させる手立て
 - ・外部検定試験 TOEIC IP オンライン実施（R6参集）1時間で受験可、期間内いつでも受験可、問題集の配付有



第1回英語学力向上対策検討委員会



SAGA eスタディ

令和7年度 佐賀県 英語教育改善プラン

目標

生徒の英語力向上のための「指導と評価の一体化」に基づく教員の指導力向上及び評価の改善

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

(R6: A2以上 49.3%、B1以上 17.8% ⇒R7: A2以上 55.0%、B1以上 25.0%)

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①「英語コミュニケーション」においてスピーキングテストとライティングテストを両方実施している割合が増加した。

(R5:48.3%⇒R6:79.8%)

②授業における生徒の言語活動の割合で50%以上がやや減少したが、高い割合を維持できている。

(R5:96.6%⇒R6:92.9%)

①「論理・表現」のスピーキングテストの実施率が比較的低くなっている点が改善が必要である。

〔英語コミュニケーション:91%〕
〔論理・表現:57.6%〕

②CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が50%手前で停滞している。

(R4:48.5% R5:46.5%

R6:49.3%)

③英語担当教員の授業における英語の使用状況が50%以上の割合について改善が必要である。

(R5:40.7%⇒R6:40.0%)

2. 要因分析

①②佐賀県英語指導力向上研修、また教育課程研修会を通して、指導と評価の一体化をテーマにして取り組んできたことが一因であると考えられる。

①「論理・表現」においてスピーキングテストの内容や実施方法についての周知が不十分であること、また実施されている場合も、英語科全体での共通実施が徹底されていないことが一因だと考えられる。

①②③学習到達目標達成のための学習指導計画自体が不十分であること、また学習指導計画が立てられているが、実際には計画通りに運用できていない場合があることが一因だと考えられる。

③授業も実際のコミュニケーションの場であることを前提とした学習指導計画を立て、それを運用することが必要であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②指導と評価の一体化のための取組の推進

・「CAN-DOリスト」による学習到達度目標の設定及び到達状況の把握のためのパフォーマンステストの実施を周知する。また、必要があれば「CAN-DOリスト」の見直し及び再設定を周知する。

①②③教員の指導力向上のための取組の推進

<英語指導力向上研修>

・パフォーマンステストの実践事例を紹介し、実践を推奨する。
・ワークショップ型研修で、「論理・表現」のパフォーマンステスト、特にスピーキングテスト実施率向上に向けて学習指導案作成に取り組む。
・各校で校内研修（公開授業、授業検討会等）に取り組む。
・各校でのパフォーマンステスト実践例を収集し共有する。
・潜在的にB1レベルの英語力に達しそうな生徒の把握及び指導の強化を周知する。
・中学校の公開授業参観及び各種研修への参加を推奨する。
・教育センターやスーパーティーチャーと連携し、研修を企画する。

②グローバルに活躍する人材育成のための取組の推進

・佐賀県中学生・高校生海外留学等助成事業により3か月以上の留学について経費を助成する。

①②ICT活用の推進

・ICTを活用した効率的なパフォーマンステストの実施とその評価についての情報を収集し、共有する。
・SAGA e スタディ（英語デジタル教材）の活用を推奨する。



SAGA e スタディ

佐賀県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	47	50	49	55		58		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	15	20	18	25		28		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	97	100	93	100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	47	90	66	90		95		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	95	95	95	95	96		97		98			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	41	80	40	80		85		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	30	50	41	55		58		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	60	80		85		90		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	95	80	95		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99	100		100		100		100	
		公表(%)	100	99	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	99	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	41	50	44	53		56		60		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	47	80		85		90		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	100	100	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100